L-5

217
369

清國事變に就きて

世界宗教者に告くる書並に評論

特48
533

大日本佛教徒謹みて我敬愛する世界の宗教者諸師に告ぐ清國の禍亂は今や其極に達せり國運陵遲して政令行はれず匪徒横行して綱紀全く紊る内に志士の盡瘁するなきに非ず外は友邦の提携するありと雖も舊狀未だ遽かに回復する能はずして四億の生靈販する所を失ひ其社會上の困厄及道德上の壞敗實に言ふに忍びざる者あり而して此頽瀾は當に何の時にか挽回せらるゝを得べき吾人苟も事に人類の救濟に從ふ者豈之を坐視するに忍びむや況や禍亂の延く所廣く寰宇の全局に關する甚だ大なるものあるをや又況や其端を發する實に宗教の云爲に繫れる者あるに於てをや是を以て清國善後の計に至りては清國及列國當局者の妥協商議に從ふの

明治三百二十一

外なしと雖も彼禍亂の根蔕を芟除して清國永遠の平和と福祉とを鞏うせむことは一に之を宗教者の手に待たざるを得ず吾等佛教徒聊か斯に思ふ所あり隣邦國民の友誼として又宗教者の本務として殊に清國の宗教に關繫を有する者の職責として自ら揣らず敢て玆に世界の宗教者諸師の高慮を煩はさむと欲する者あり吾等佛教徒は慈仁にして宏量なる諸師が其不遜を寛恕し且つ宗派上の障壁を撤却して清國民人の福祉の爲めに又寰宇全局の昌平の爲めに坦懐以て吾人の言ふ所を聽くあらむことを信ず

惟ふに宗教の世に存するもの一にあらず而して今姑く其未だ發達せざるものは之を措き其高尚なるものに就きて之を言はゞ各其理義を異にし其典禮を殊にして相狀甚た同じからざるにも拘はらず其中心の本義は極めて相接近するものあるを見る殊にそが世界の人類に對するに當り仁愛を以て基礎とし此仁愛の光明を掲げて人生の暗冥を照破し億兆を罪惡と困厄との中より救拯し以て寰宇をして高尚なる福祉と昌榮とに進め以て人道の圓滿ならんことを期するに至りては進歩したる諸宗教の悉く一致する所而して是れ實に宗教の世に存する所以の本義にして斯本義に因りて宗教は成立し斯本義に由りて宗教は活動す斯本義は平等の眞理なり無上の大道なり夫れ此の如く宗教已に平等の眞理に立つ則ち宗教者は常に平等の見地に住せざるべからず宗教已に無上の大道に因る則ち宗教者は宗教以外の誘惑に亂さるゝべからず宗教者の眼中には唯當さに平等仁愛の本義とこれに

よりて救濟せらるべき生靈とを見るあるべきのみ若し宗教者にして社會の差別的區劃に拘束せられ邦國人種文化及び風習の異同に由りて教化の精神を異にし或は種々の欲望及び企畫に關渉して宗教の本義以外の目的を果遂せんとする者あらんか是れ實に宗教の本義を失却したる者なり眞實の宗教者豈斯の如くにして可ならんや是を以て古來各宗教の聖賢は一に此平等仁愛の本義に從ひて毫も其他を顧みざりき惟ふに我敬愛する世界の宗教者殊に基督教教會の傳道者が唐朝以來茲に一千餘年相繼いて遠く清國に來り幾多の困難を冒し一意事に傳道に從ひ兼ねて清國文化の開發に努め其社會上の福祉を增進せんことを圖りたる所以のもの亦方に此平等仁愛の本義に從ひて清國民人の救濟を全うせむと

欲するにあらざるはなし是れ吾等佛教徒の常に感歎して措く能はざる所なり而して我日本佛教徒も亦近世清國佛教の萎靡衰廢し世道人心に補益する頗る薄弱なるを悲み頃來聊か清國弘法の事に從へり而も時を經る未だ多からず經驗猶淺く効績の見るべきもの未だ之れ有らずして清國に於ける泰西諸教會の驥尾に附隨する能はざるは吾等佛教徒の自ら顧みて慚愧已む能はざる所なり

基督教々會の諸師が清國に於ける盡誠は極めて大なり啻に教堂建設の廣く各州に遍ねきのみならず傳道者の派遣の普く諸省に及べるがためのみならず此等によりて清國民人心靈上の救濟に關する企畫は未だ曾て怠られずして數多の學堂、書院、醫館、救貧院、孤兒院、幼稚園、印刷局及出版所等凡そ文化

の開進に必要なる結構は各々完美を盡し孜々として清國社會上の福祉を增大せんことを勉めつゝあり是れ宇内公衆の具瞻して疑はざる所なり夫れ此の如く基督教會の諸師は清國に對して宏大の盡誠を致せり清國民人たる者宜しく此鴻恩を認めて之れに謝し報ふる所あるべきなり何ぞ圖らん彼民人は啻に基督教々會諸師の厚誼を認めざるのみならず却て頻に其教堂を破毀し其教師を迫害し又其教民の生命財産を刼奪し暴戾殘虐を恣にして顧みざるあらんとは然れども熟ら顧ふに清人の性質固と妄りに外人を憎み外教を嫌ふものにあらず清人は古來寛容の國民なり宗派の衝突の爲めに未だ曾て干戈を弄したることあらざるは明に史乘の證する所たり而して今は則ち此の如き寛容の性質を有せる國民を

して猛烈なる排教的精神を起さしめ世界宗教者の宏大なる慈愛の念及び盡誠の効をして啻に其感佩する所とならしめざるのみならず却て益々其排教的精神を助長する原因たらしむ此れ豈其故なくして然るならんや吾人は思ふてこゝに至るごとに清國に於ける傳道者の行動に憾なき能はざるなり

吾人竊に清國民人の排教的精神の原く所を尋ぬるに彼等が外國宗教の傳道者に對する疑惧恐怖の念卽ち其因由たらずんばあらず清人は外來の傳道者を以て清國の風習禮儀を蹂躙する者なりと認めたり清人は外來の傳道者を以て清國の法度を無視し其本國の權威を藉りて清國の政府及民人を壓抑し自己の私慾を擅にする者なりと認めたり清人は外來の

傳道者を以て其教徒は國法上の罪人なるも之を曲庇隱匿し其教徒に非る者は國法上の無罪者なるも之を陷擠する者なりと認めたり清人は外來の傳道者を以て無頼の匪徒を使嗾して非望を企る者とし外教の殿堂を以て罪人の隱匿所なりと認めたり清人は外來の傳道者の宣教を以て各本國の外政に關聯する者なりと認め傳道者を以て本國政府の使役する所となり本國の商權を振張し又は其領域を擴大するとを勉むる者なりと認めたり清人は傳道者先づ來り領事之に繼き將軍之に次かむことを危ふみたり清人は聖書を捧げて到るものゝ後には鎗劒を執て立つものあらんことを惧れたり而して賠償の要求而して領土の奪畧而して何而して何此の如くして終に祖國の滅亡此れか局を結ぶに至らむことを怖れ

たり既に之を疑惧し之を恐怖す清人たる者此疑惧恐怖の念に驅られてその遂に外來の宗教を排斥せんとするに至るは亦自然の勢なり是れ義和團匪の因て結合せられたる根本精神なるが如しこの精神結びて解けず偶ま中央政府に於ける政權の爭奪の事ありこれと關聯して終に今春以來の禍變を釀成し來れるなり然れば則ち彼清人の爲す所殘虐暴戾眞に惡むべきものありと雖も深く其衷情を推察するときは亦竊に同情の感なき能はず然れども吾等佛教徒は之が爲めに清人の疑惧恐怖を以て正當なりと定むる者には非ず却て其誤謬の見解に出でたる者なりと認めんことを欲す何となれば平等仁愛の本義を識了せる宗教者にして彼清人の疑惧恐怖するが如き行爲に出つべきの理決して存せざればなり然れ

ども彼清人をして此誤謬の見解を傳道者の上に加へしめたる所以の者に至りては傳道者は果して全く其責を有せずとするを得べきか吾人は諸國の外政當局者の公言と諸國の駐清公使の報告の公行せられたるものと世界の最も信認する諸新紙の報道とに照らし又之を清國從來の史乘に考へ更に清國の現狀に徵して彼等在清傳道者の行動には清人をして此誤謬の見解を生ぜしめたる所以の形迹存するを認めざるを得ず即ち彼等在清傳道者の爲す所平等仁愛の本義に遠かりて宗教の本領を逸し本國教會の眞精神を離れたるが如きものあるは是れ何人と雖も否む能はざる所なり而して是れ固より傳道者の本意にあらずして偶爾の過失に過ぎざるべきも其が傳道者行動の正當なる範域を脱したるものなるは

爭ふべからず清人の疑懼恐怖之に因りて生じ今回の禍亂之に原きて起る然れば則ち今回の禍亂に就きては清國に於ける傳道者正に其責を負はざるべからず平和を希望し人道を鼓吹すべき傳道者にして其行やこゝに及ぶこれ豈に宗教界の一大恥辱にあらずや是を以て吾等佛教徒は世界の宗教者が共に毅然として清國に於ける傳道者の行爲偶以て宗教の本義に遠かれるものあるを自覺し玆に進みて清人をして速に傳道者に對する疑懼恐怖の念を除却せしむべき方法を講ぜられんことを希望せざるを得ず若し然らずんば平等仁愛の德音如何にして宣揚せらるゝを得む平和昌榮の光明如何にして發揮せらるゝを得む四億の生靈は長へに塗炭の苦惱に沈淪せむ東亞の天地は永く擾亂の妖雲に鎖されむ此の如

きは吾等佛教徒が上は眞理の大道に對し下は四億の生靈に對して恐懼痛嘆已む能はざる所なり

然らば如何せば清國の民人をして此疑懼恐怖の念を去らしむべきか吾等佛教徒は廣く世界の宗教者に對して玆に二個の條項を提議し以て諸師の協贊を得むことを望む

第一に世界の宗教者は其清國に於ける傳道者をして本國の外政と隱約の連絡あるかの疑懼を招くが如き行動を一切避けしむべきなり之を例せむに清人が多少の迫害を傳道者の上に加ふるや傳道者が本國政府をして口を之に藉りて自國の慾望を滿たさむが爲めに清國を苦しむるが如き措置をなさしめ甚だしきは傳道者自ら進みで其損害に對する賠償を要求するが如き行動は全く制抑すべきなり何となれば是

れ宗教の本義に遠かる甚しきものなればなり曩に厦門に於ける日本佛教徒の教堂清人の燒く所となるや吾等佛教徒が大日本政府をしてこれがために清國政府を窮迫するが如きことなからんことを望み又其損害に對する賠償を要求することなかりしもの亦此に省みる所ありしが爲の故のみ惟ふに古來各宗教の聖賢が迫害者に對するや啻に怨恨若くは復讎の念を以てせざるのみにあらず却て加ふるに愛憐の情を以てし昌榮の其上に降らむことを祈れり願くは吾等世界の宗教者相俱に聖賢の心を以て心とし我傳道者の上に幾多の害毒を與へたる清人を敵視せず怨に對するに德を以てし此可憐なる國民の上に永遠なる福祉の來らむことを務めむ

第二に世界の宗教者は其清國に於ける傳道者をして清國

社會上の綱紀を壞亂する者なりとの疑懼を招くが如き行動を一切避けしむべきなり之を例せむに清國古來の風習禮儀を悉く破却し其國法を侮蔑し又教民と然らざる者との間に偏曲の處置を加へ罪人を隱匿し若くは曲庇するが如きは亦是れ宗教の本義に遠かれるの甚しきものなれば一切斯の如き行動あらしむべからず蓋し清國の文化は未だ完全の域に進まず其風習禮法に於て改むべきもの頗る多からむされどこれに對するに妄りに急激の破壞を以てし一はら外國の習俗禮法をこれに移植せんとするが如きは是れ迷謬の極なり況んや清國は古來禮樂の地儀典若くは習俗の見るべきもの今猶存するものあるをや然もこれを察せず妄りに固有の風習を除却し古來の秩序を壞亂せんとするが如きは是れ實に傳道者の本領を失へるものなり是を以て吾人は宜しく清國の風習禮義に對し又其國法に向ひて愼重なる態度を保ち漸次に文明の開進と宗教の扶植とを勉めざるべからず願くは世界の宗教者が各其清國に於ける傳道者をして相共に此に進ましめんことを是れ平等仁愛の本義に由れる宗教者の當に採るべき方向なればなり

吾等佛教徒は敢て此の二個の條項に就て謹みて世界宗教者諸師の誠實なる協贊を求む若し諸師にして幸に吾人の微衷を容れて共に此途に進まば清國の良民は從來の疑懼恐怖の念を一掃し歡びて世界宗教の德光を仰がむ彼改宗者の名義を假りて不正の私慾を恣にしたる無賴の徒は終に屏息して復た外教を煩はさゝらむ而して清國傳道者の前途は洋々と

じて春海の如くならん是に於て清國禍亂の根蔕全く絶えて其民人の心靈上の開進此に果遂すべく東西文明の調和此に成熟すべし隨ひて其政治上及社會上の綱紀亦茲に整はむ斯の如くにして四億の生靈は塗炭の痛苦を離れて平等仁愛の德化に浴し四百餘州の天地は擾亂の妖雲を脫して清明安泰の幸運に入り神聖なる平和昌榮の光明は煥爛として廣く寰宇に滿つることを得む是れ大日本佛敎徒の衷心より希望する所なり

大日本帝國京都市建仁寺內
大日本佛敎徒同盟本部にて
大日本佛敎徒同盟代表者
天台宗座主　中山玄航

明治三十三年十一月

眞言宗長者	長宥匡	
淨土宗西山派管長	久田做道	
臨濟宗南禪寺派管長	豐田毒湛	
眞宗大谷派管長	大谷光瑩	
黃蘗宗管長	吉井虎林	

劉總督跋

本篇を清國に頒布するや兩江總督劉坤一氏は其贊同の跋文を寄贈せられたり今左に是を掲けん

是書見道深切持論公平抉禍亂之根源闡慈悲之旨趣但西洋各教奉爲指歸則無黨無偏亦何嫌何怨中外永遠可保安全之局矣夫教者所以默化潛移非可刑驅勢迫即如佛教之入中國迨今二千餘年未嘗束以條約也未嘗脅以兵威也而流傳日廣崇奉日多無分貴賤智愚莫不切修持而信因果間有闢佛之人絕無仇教之事佛教如此各教可以類推矣作是書者佛地位人婆心苦口現身說法以開覺路而渡迷津謹跋數言以誌仰企

兩江使者　劉　坤　一

評論

編者識

世界宗教家に向て本篇を送附するや陸續贊同の辭を寄せられ余輩多くの同感の士を得たるを喜ぶ今其評論中の主なるもの五三を掲けん歐米は道遠くして評論未た到達せざるため之を掲載する能はざるは甚だ遺憾とする所他日更に增刷の時を期し之を加へん

明治三十四年一月二十一日

○「基督教週報」の評論

世界の平和を圖り、人類の福祉を進めんが爲め、キリストの愛に感激し、未開の民に救拯の福音を傳へ、四海相愛、此土に理想の平和を見んとす。之れ實に外國傳道の動機なり。教育、慈善、社會改良、皆之れが爲に資するに過ぎず。動機既に博愛的なり、決意既に獻身的なり、其間些の野望なく、陰志なく、此身此心、全く此民に獻げん

とす。何等崇美の業か外國傳道に過るものやある。時に或は誤解迫害。其身に及び、血爲に流され、骨爲に曝さるあり。されど固より之れ當初の所期、遂に博愛の犧となる、榮光むしろ之に勝る宣教者の晃あらんや。流されし其血は空くならず、曝されし其骨徒らに朽ちず、殉教者の屍は教會の礎となるべし、而かも何者の政客か、陰險敢て此間に外交の奸計を逞ふせんとする。宣教者の殉教する之れ單に宗教的一事のみ、何等政治的行動を此間に挿むを許さざるなり而かも口を本國民保護に藉り、賠償要求となり、土地割讓となる、噫、之れ豈に殉教者の素志ならんや、彼等初めより、獻身宣教に從ふもの、土人を愛するの至情、豈に己が生を思はんや從て又其死をや。彼等は本國が其國民の一員に對する相當の保護は或は辭せざりしなるべし、されど、誰か己が死によりて、政客の野望を遂げしめんと夢想せんや。悲哉、夕陽落ちて蝙蝠跳梁し、菫花凋みて、蔊草跋扈す。陰險の外交、遂に宗教家が博愛の動機を沒却し去る。之れ實に十九世末東亞傳道界に於ける一大悲觀なり。

これ吾人が夙に宣教師國籍脫出論宣教師歸化論を抱ける所以なり。外交政畧の東西の地に網せる時代に於てはかくの如にしてのみ福音の宣傳者は純粹に其の使命を全ふし得るなり。頃者北清事變の禍因、亦宣教者と相關するを見て益々其所懷を堅くせり。

數日前、大日本佛教徒同盟が、世界の宗教者に發せる檄文亦此點に觸れたり、今回の禍亂の清國民人の排外的精神に因するを說き、其排外的精神の生せるは、在清宣教者の態度の過まれるに論及し、而かも此の疑惧を受くるは清國人民を愛する世界の宗教者の本意にあらざるを云ひ、之を消掃せんとして、二個の提議をなして曰く、

第一　世界の宗教者は其清國に於ける傳道者をして、本國の外政と隱約の連絡あるかの疑惧を招くが如き行動を一切避けしむべきなり

第二　世界の宗教者は其清國に於ける傳道者をして清國社會上の綱紀を壞亂する者なりとの疑惧を招くが如き行動を避けしむべきなり

是れ豈にヒューマニチーの爲に絕叫する正義の聲に非ずや、是れ豈に宣教の爲に高擧する博愛の旗に非ずや。吾人は日本佛教徒同盟の諸士よりして、此正義の聲と博愛の旗を世界に示されしを多とするものなり。

君見ずや、ノアの方舟にも鴉は鳩の群に混し居き、穢々たる麥圃尚燕麥あるを免れず、小人識らず、君子の志惜哉、聖教屢末徒の過る所となる。語を寄す、帝國主義の妖姿に迷ふ、今の所謂基督教國の外交家、極東日出國の異教徒の檄に接して感果して如何。

一夜半宵、佛徒の檄文を手にして感慨無量。即ち之を記す。

◉「日本」新聞の評論

(萬國平和論者と日本佛教家)

國際平和の確立を主義とする各國の諸團體は、去る九月の末佛國巴里に聯合大會を開き、トランスヴールの事件及び支那今回の事件に付て、議決する所ありしといふは、既に報道し置きたりしが、其支那事變の第一原因として擧げたるを見れば、吾輩が曩に屢〻論じたる所と符合して、歐洲宗教家の支那に於ける傳道事業に在りとするが如し。頃日我が國の佛教家等は世界の宗教家に向ひて一篇の意見書を發し、支那に對する傳道事業の往々にして土民の誤解を招ぐことを遺憾なりとし、斉が匡正の最も將來の平和に急要なるを告げたりといふは、實に空谷の跫音たりき。思はざりき、世界の中心とも目せらるゝ巴里に於ても各國の識者等が同一の考察を以て、二閲月已に此の問題を其の聯合大會に提出し、東西萬里相ひ期せずして殆ど同一の匡正策を言ふに至らんとは。

日本佛教家の告白は本紙數日の論説欄に抄出して、評論を加へたる所の如し。其の大要は歐洲宗教家の支那に來る者を戒めて其の國の政府を後援として宗教以外の意味を帶ぶるの擧動を避けよといふに在り。萬國平和論者の大會に於ても、亦た支那事變の第一原因を傳道事業に歸し、傳道者等が毎に各々其の政府の外交及軍事的後援を要求するの非を言へり。念ふに、平和論者等の此の議決は列國政府を動かすの力なきは勿論其の宗教團體をも恐らくは動かす能はざらん、況んや東亞一國の佛教家等の告白をや。然りと雖ども正論は必ずしも目前の窮通行否を問ふべきに非ず、機會ある毎に怠らず之を表白するは、將來に向ひて一歩たりとも其の道を開くなり、是れ萬國平和論者の自ら分として俗界一時の輿議を顧ざる所以にあらずや。日本佛教家の告白も亦た其の覺悟に出でたるものとすれば、空論に止まるとの嘲は恐るゝに足らじ。萬國平和論者の大會に於ける

議事の大要は左の如し

基督教各組合の宣教師の事業は單に其宗教の道義に依るべきをさはせずして各々其政府の外交及び軍事的援助を求めたる運動に出でたるものなり(中略)

右の議事によれば、萬國平和論者の聯合大會は世界の廣居に立ちて西洋傳道家の支那に對して禍亂の挑發者たるを宣言し、併せて西洋各國人の支那に在る者等の支那人を虐待することを咎め、又た列國外交家等が支那を誤認して種々の隱謀を施すことを尤め、毫も憚かる所なき亦た壯といふべし。日本佛教家等が西洋の宗教家に告ぐる文といふを見るに其の辭氣の温良にして恭謙なる、本と東亞人として支那人と親近なるより自ら嫌忌を避るに出でたらんも、吾輩より言へば聊か隔靴掻痒の感なきを得ず。辭氣の温恭は宗教家として寧ろ適當なりとせば、幸は論外として、其の大意の偶然にも巴里の平和論者の大會の議決と相同じきは、日本佛教家に取りて意外の幸ならん。正論は其の時代に行はざるも世界の良心に向ひては到處に反響あること如此、日本佛教家たる者今より宜しく世

の輿論を恐れずして益〻奮進すべきのみ。

「ジヤパン、デリー、メール」の評論

注意すべき一冊子は日本に於ける佛教徒の六宗管長によりて發布せられぬ、彼等は自ら稱して大日本佛教徒同盟代表者といふ、彼等が代表する宗派の位地より考ふれば、此名稱は尤も至當といはざるべからず、此檄文は清國事變に關係せるものにして、北清事件の原因を論じ併せて其救濟を講するを以て主眼とす、彼等高僧は其原因を論ずるや、實に明白にして間然する所なし、彼等は之を論するや、筆を外交の方面より起せりと雖も、而も彼等は禍亂の根蔕を芟除して清國永遠の平和と福祉とを鞏うせむことは、一に之を宗教者の手に待たざるを得ざる事を信せり、吾人は此檄文を讀むに當りてや、佛教徒は彼等自身の布教の功能を賞讃して、基督教徒を非難するものにはあらざるかを疑ひしも、こは一の狐疑に過きずして、一編を通觀するに聊かもさる傾向なし、此點に於ては今回の檄文は謙遜と節度との好模範と稱するも過言にあらず、

彼等は隣邦國民の友誼として宗教者の本務として、殊に清國の宗教に關係を有

する者の職責として、默するに忍ひすとて此檄文を發するに至れりといふ、然れども彼等は毫も我田引水的の言をなさず、彼等は世界の慈仁なる宗教者に向て、彼等の熱情に聽き、清國民人の安寧と寰宇全局の平和の維持に關する提議を賛せんことを求めぬ、而して彼等は忠實に世界の宗教は其皮相に於ては各異る所ありと雖も、其高等なる宗教にありては、其根本原理は縱令全然同一と云ふへからすとするも、仁愛の教を說き、之に依りて世の暗黑を照破し、億兆を罪惡の源泉より救濟するの點に於て相類似すてふことを云ひ、尙進んて過去千年以來、世界の宗教者殊に基督教會の傳道者は、大なる困難あるにも拘はらす、清國に渡航して一意專心、教理の宣布と文明の發達に盡瘁する所ありたるを云ひ、之れ偏へに人類に對する博愛の原理か清國人民に對して活動したる面影たらすんはあらずとし、尙更に進んて彼等は云へり、佛教徒は此點に於ては到底充分なる讃辭を述ふる能はすと、而して彼等は基督教徒の傳導に比較して、佛教徒は數年前より清國傳道に盡瘁する所なきにあらさるも、其貢獻する所甚た輕少なるを慚愧せり、宗教的批評中かゝる寛仁大量の言に接したるは近頃快心の至りとす、

清國に於ける基督教傳道者は清國の文明を進め、鋭意熱心宗教の宣布に盡瘁したる効は沒すへからすとの佛教徒の讃辭に對しては、基督教徒たる者感謝する所なくんばあらず、然れとも佛教徒は此賞讃と共に又批評する所なきにあらす、彼等の意見に從へは、元來清人は排外的思想を有するものにあらさりしは歷史の證する所なるにも拘はらす、近來に至りて排外的思想を現出するは豈故なくして可ならんや、さらは其原因とは何そや、宣教師の或者は清國古來の慣習を破壞し、國法を無視し、清國政府及人民を壓倒して我情を遂行せんとしたるに因る所なしといはさるへけんや、要するに佛教徒代表者は歐米の識者の思考する如く、清國に於ける基督教傳道者は偶宗教の本義を逸して宗教と政略とを混交したると、基督教民と純良なる清國官民との間に立ちて權威を振ひたると、宣教師の害せられたるの故を以て某國か某地を占領したる等の原因に依り、清人をして宣教師先つ來り將軍之に次くとの感を抱かしめ、聖書を捧けて到るものゝ後には鎗劒を執て立つものあらんとの情を起さしめたるに外ならす、是を以て彼等は世界宗教者に向て、宗教宣布者は須らく外交と宗教との混同を避け、併せて

清國社會綱紀の破壞を試むるか如きことあるへからすとの二個の議を提出せり、かくてこそ清人の疑惧を去りて純然たる宗教宣布の恩澤に浴するを得へしとせり、

此檄文の評價は種々にするを得へけんも、そが含む所の精神に至りては豈顯著ならすとせんや、實に之れ歷史に於て佛教徒か國際問題に關して同時代の基督教徒に提議したるの嚆矢とす、而して其提議の體裁其宜しきを得たる事は以て優に彼等の信用を博するに足ると云はさるへからす、

◉「ジヤパン、デーリイ、ヘラルド」の評論（取意）

檄文の目的とする所は清國刻下の擾亂に對し之が救濟の道を講するにあれば通篇讀過し來りて轉た吾人をして興味を覺えしむる者あり檄文に曰く宗教は人類の遵守すべき無上の大道を具す身苟くも教化の事に從ふもの其行動決して宗教以外の誘惑に擾亂せらるべからずと此等の意見は吾人が殆んど全く贊同する點にして吾人が從來基督教の傳道師に對し屢〻其行爲を非議せし所以のものは畢竟此等が堅く本義を守らざりしによる、

檄文は基督教傳道師が支那に於ける社會の幸福を進捗せしめたる功を謝し而して更に支那人が此等傳道師に對し恩に感し惠に頼るの擧に出てず却て敵對の行爲を示せるを述べ其理由を究めて傳道師の俗權と教權との間に井然たる區域を劃せざりしに由るものとせり是れ吾人が同意する所にして吾人が今般の事件に關し今日に至る迄終始一貫して抱有する意見と一致するものたり又檄文は如何にせば清國人の恐怖疑惧の念を釋然氷解し得べき問題に對し解答を與へて二個の方法を提議せり是れ引用の價値ある文字なり

（引照文字畧）

惟ふに此書は世界の宗教家中主として我か基督教の傳道師の諸氏に對し發したるものなれは諸氏は須らく此深慮ある忠告を輕忽に看過するとなく三たひ思ひを茲に致すべし是れ吾人の切に望むて已む能はさる所諸氏若し此忠告を服膺して怠るなくんは庶幾くは支那に於て從來繁滋せる弊害の大部分を杜絶するを得む

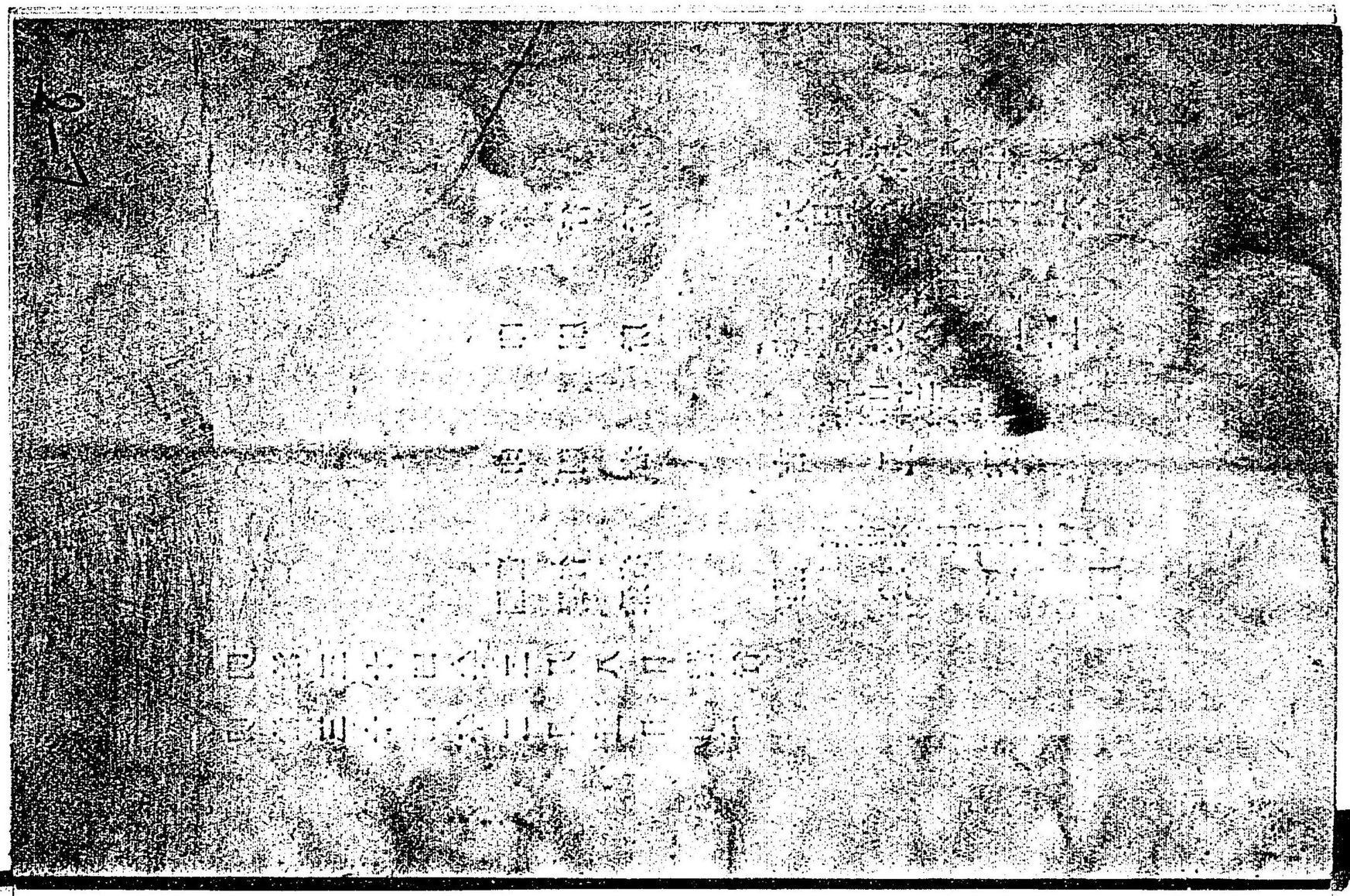
◉「六合雜誌」の評論

支那事變の狂潮は今尚荒れ回りて收まる所を知らず、清帝遠く蒙塵し、官人多くは離散し、而して列國使臣會議、北京に開かれ乍ら、未だ確たる決斷を見ず、二億の人民將た何處にか適歸せむ。支那問題の前途尚遠しと謂ふ可し。蓋し這回の變亂は近古稀有の椿事なるべし、苟も經國に志す者、安んぞ一日尚支那問題を忽にすべけんや。而も熟々這回變亂の原因を推考するに、啻に政治的關係之を然らしむるのみならず、又實に宗教的關係、其間に錯綜せるものあり。清國にある外國宣教師は、屢次清人をして幾多の誤解を生せしめたり、幾多の惡感情を抱かしめたり。彼れ外國宣教師や、素と平和的宗教の宣傳者のみ、何ぞ又政治上の俗權を賴むべきものならんや、然るに、彼等動もすれば、政權を假つて宗教の擴張を謀らんとし、若し清人の害を加ふるあらば、彼等は宗教家として之に接するの途を講ずるよりも、先づ政治上の權力を假つて之を防がんとするの傾向あり。外國政府も亦宣教師に加害したる清國頑民を罰するに、餘り酷にして、僅々二三宣教師の被害に報ふるに清國領土の割奪を以てす。山東省に於ける獨逸宣教師二人の遭害あるや、獨逸政府が直に軍艦を派して膠州灣を占領せるが如き、何ぞ其酷にして且暴なるや。是を以て清人等外國政府を嫌ふと俱に又彼等宣教師を疑ひ、甚だしきは、宣教師を以て外國政府の手先なるかの如く思ふものあるに至る、現に支那に行はるゝ俚諺には『最初に宣教師來り、次に領事來り、第三に將軍來る』と言ふにあらずや、斯くして清人の外國宣教師に對する惡感情は益高まれり、宗教は清人の反抗を引起すべき一原因とはなりぬ。見よや、義和團の如きも、單に政治上の排外黨たるのみならず、又實に宗教上の排外黨にあらずや、先づ宣教師及基督教徒を攻擊したるにあらずや固より清人の頑迷なる、西洋の宗教を解する能はずして、這樣の反抗を試みるに相違なしと雖も、彼等宣教師の行動餘り壓抑的なりしは實に之が一因たらずんばあらず故に這回の變亂は多少宗教上の紛糾より生ぜしや爭ふべからず、是れ啻に吾人が私論なるのみならず、實に世界有識者の公說たる也、我國佛教徒茲に見る所あるか、近頃和漢英三文にて『清國事變に就きて、世界宗教者に告ぐる書』と題する一小冊子を草し、之を全世界に領布したり、其趣旨は這般變亂につき世界の基督教國に注意し、支那に於ける宗教家の行動を匡正せんとするに在り、其論强ち無理とは言ふべからざるが如し、但し佛教徒より基督

教徒に對し、這回の訓戒を加ふる時は、其間に宗派的感情混じ易く、爲に双方共眞に相融和して斯道の發達を謀ることを叶はず、却つて誤解邪推を招ぐの虞なしとせず。然れ共吾人は先づ佛教徒の心を諒とし、基督教徒の之につき深く省慮するあらむを望まざるを得ず。

明治三十四年二月五日印刷
明治三十四年二月八日發行

編輯兼發行者　蕪城賢順　東京市本郷區森川町一番地
印刷者　吉見繁藏　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
發行所　大日本佛教徒同盟本部　京都市下京區建仁寺町四丁目二十六番戸建仁寺内



清國事變に就きて世界宗教者に告くる書並に評論

国立国会図書館

特48
533

013671-000-1

特48-533

清国事変に就きて世界宗教者に告くる事並に評論

蕪城 賢順／編

M34
ABA-0141